

て、私達の世界におけることではないのです。

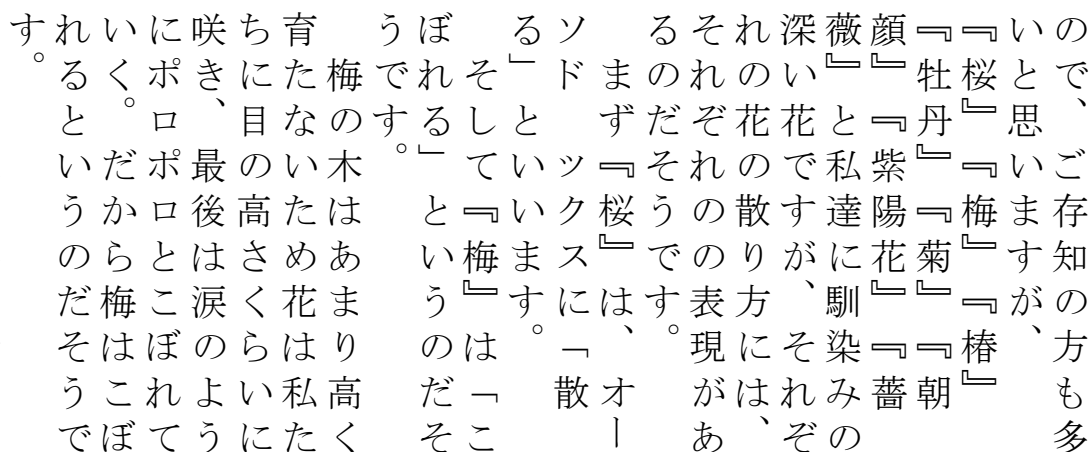
私達が世間の物事をよくするために努力することを「自力」と呼ぶならば、その意味での「自力」は大切なことでしようが、自分たちではどうしようもないことを「他力」に任せるとして遠ざけるならば、それは間違つた捉え方であり、ご指摘の社会的課題についてもう少しでも良い方向になるよう最後までお互いの努力が必要だと思います。

その際私達浄土真宗の門徒は、『私達はどうしても自我から脱却できない生き物』（煩惱具足の凡夫）であることを自覚し、そんな私であっても阿弥陀さまの本願他力によつて間違ひなく往生浄土できる身であることを悦び、報恩謝徳の気持ちから少しでも自我（エゴ）が薄まるように努め、そして社会のために尽くすことが『他力の本来の生かされ方』であらうかと思われまふ。

ので、ご存知の方も多
いと思いますが、

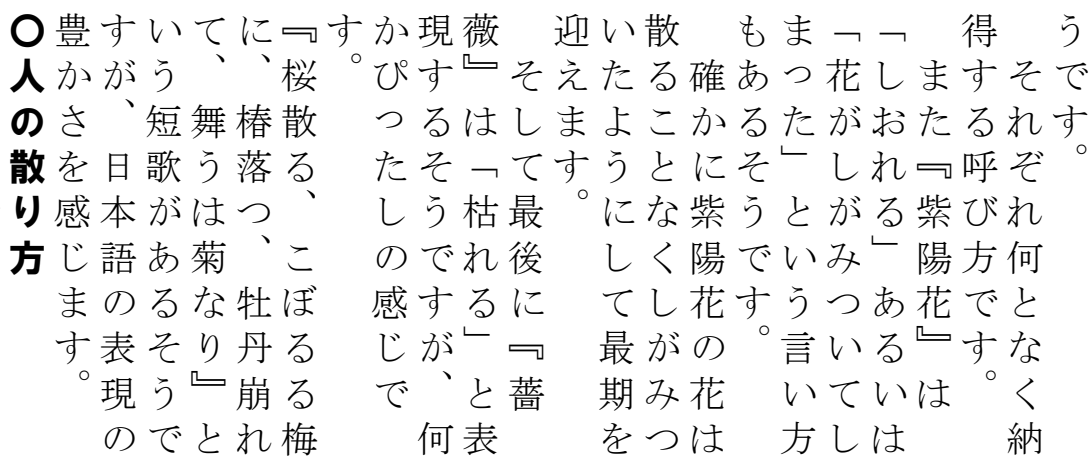
このようなことが起
きるなどとは思つても
みなかつたことであ
り、様々な制約を受け
ましたが、私達の梅鶯
仏壮は、例会も行い、
報恩講もお勤めし、本
日もこうして除夜会を
お勤めできましたこと
と、誠に有難いことと

に色す
よ々が花
つあそは
てりの枯
様、散れ
々そりと
なの方と



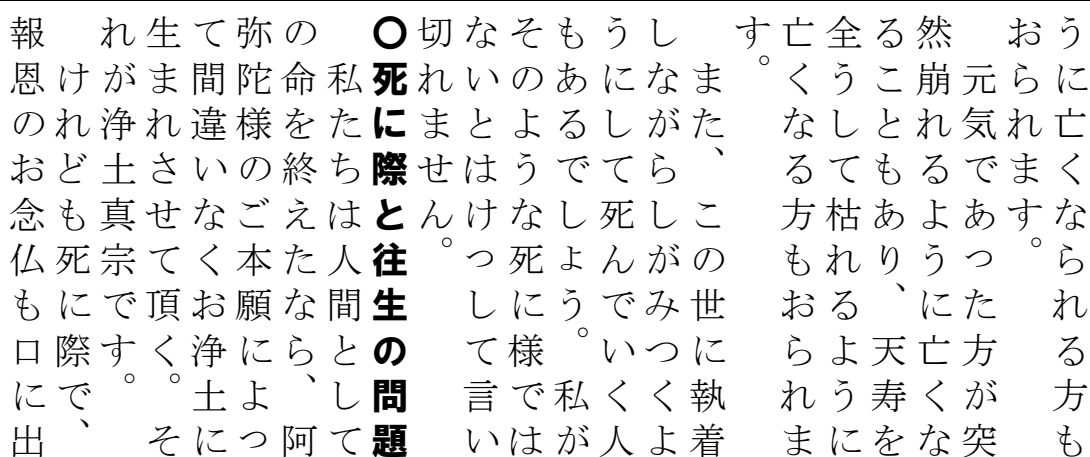
す。

椿は「落ちる」
し。す。確かに
は。ポロンと落ち
に。散り、それが



○人の散り方

一般には「死



報恩のお念仏も口に出

人間の命にしがみ

つぎ執着しなから死んでいったとして、果たして本当に浄土に往生することができるのでしょうか。